



地域日本語支援ニュース こだま 第 395 号

2021.1.28



★—— メールマガジンをお読みいただき、ありがとうございます。——★

【地域日本語支援ニュース こだま】は、日本語教育に関する事業を全国で行っている公益社団法人国際日本語普及協会(AJALT)発行のメールマガジンです。各地域で在住外国人に対する日本語・生活支援に携わっている方々に役立つ情報の共有を目指していきます。

★—— 皆様からのご意見、ご感想をお待ちしています。——★

編集部： <https://www.ajalt.org/local/soudan/contact.html>

=====

■地域日本語相談から■

AJALT の地域で活動する日本語支援者のための「日本語教育相談」には、各地から様々なご相談をお寄せいただきます。今号では、オーストラリアの日本語学校で3歳から8歳までの子どもたちへの日本語指導をしている方からのご相談と回答をご紹介します。

.....

◆相談内容

『かんじだいすき (一)』(注)の教科書を1年生～2年生の子どもたちの漢字の導入として使わせていただいて、そろそろ1年生の教科書を終わるところになってきました。お陰様で、子どもたちは教科書の名前通り、漢字がだいすきで、この教科書に出会えてよかったと思っています。そろそろ訓読みに加えて音読みも段階的に教えて、もう一度1年生の漢字を一回り教えていこうと考えているところです。オーストラリアで英語中心に育っている小さな子どもたちにとって、音訓のコンセプトをどのように混乱なく教えられる

のか、お知恵をお貸ししたいと思い、ご連絡いたしました。

検索してアイデアが得られないかと思い見つけたのは、「読みの意味がわかれば訓読み、わからなければ音読み」というものや、「送り仮名があれば訓読み」というものでした。しかし、日本語レベルが様々で、日本で育つ子どもたちよりボキャブラリーが少ない生徒たちに、この教え方では混乱させてしまわないかとうまく教える自信がありません。

日本で日本語を学ぶ外国人の子どもたち（特に10歳以下）に、『かんじだいすき』で漢字学習を導入した場合、音訓のコンセプトはどのように教えていらっしゃいますか？小さな子どもに説明的になり過ぎず、混乱で漢字が苦手になってしまわないような教え方のヒントをいただけませんかでしょうか。

◆回答

1)子どもたちへ

外国人の子どもたちに小学校1・2年生に漢字を教えるときには、以下の4つを子どもたちに漢字を教えながら話して聞かせます。

1.漢字は中国で作られた字です。

漢字には日本で作られた国字がありますが、小学校で学ぶ漢字の中では3年生で学ぶ「畑」だけです。

2.日本の漢字は読み方がいろいろあります。

中国語、韓国語では漢字一つに対してほとんど読み方は一つしかありません。

日本の漢字の読み方には音読みと訓読みがあります。

3.音読みは漢字と一緒に中国から来た音で、訓読みはもともと日本にあった言葉の意味に漢字をあてはめたものです。

4.日本語の文章は、漢字とひらがなとカタカナを使って書きます。

2)音読みと訓読みについて

経験から言うと、母語が日本語でない子どもたちや外国で育っている子ど

もたちには、言葉と漢字を一緒に覚えなければならず、音訓を同時に教えると、子どもたちには負担が多いので、一緒に導入はしないほうがいいです。日本で日本語を母語としている子どもたちは言葉を知っているので、漢字を覚えるだけでいいため、音読みと訓読みを同時に教えても負担が少ないです。

では、日本語を母語としている一般の日本人が、音読みと訓読みをどの程度に意識しているでしょうか。日本人の大人に、小学校2年生で学習する「肉」の読み方について、「にく」は訓読みですか、音読みですかと尋ねたところ、訓読みです、と答えた人が多くいました。正解は「にく」は音読みです。また、漢字の中で一番読み方が多い「生」はどのような読み方があるでしょうか。一度に答えるのは、日本語母語話者にも難しいです。生まれる（うまれる）、生い立ち（おいたち）、生命（せいめい）、生粋（きっすい）、芝生（しばふ）、一生（いっしょう）、生える（はえる）、生業（なりわい）、生もの（なまもの）、などあります。

以上二つの例からも、子どもたちにはこれが音読みだ、訓読みだと教えるよりも、漢字の積み重ねの中でどう読むかを教え、それを子どもたちは覚えていくことが、一番負担なく覚えられ、使えるようになるのではないかと経験から思います。但し、日本の学校教育の中で学ぶ子どもたちには、音訓のテストがあるので、意識しながら教える必要があると思います。

3) 「かんじだいすきシリーズ」のコンセプト

日本語を母語としない子どもたちにとって、言葉を覚えるのと同時にひらがな・カタカナを覚え、それに加え漢字を覚えなければならず、子どもたちの負担が大きく、途中で学習意欲がそがれてしまうことが多いです。そんな子どもたちが楽しく、達成感をもって学習できるようにしたのが「かんじだいすきシリーズ」です。それですので、漢字学習では、音読み訓読みを同時に提出するのではなく、子どもたちが生活の中でキャッチしてきている言葉からの導入をしました。無理なく学習できるので、達成感を持つことができます。

4) 『かんじだいすき（一）』を学習し終えて

『かんじだいすき（一）』を通して学習した後、新たな読み替えを導入する場合には、『かんじだいすき（一）』には出てこない以下のような読み方

を学習してから、『かんじだいすき (二)』に進むといいでしょう。

1 課：一(ひと)つ、二(ふた)つ、三(みっ)つ、四(よっ)つ、五(いつ)つ、
六(むっ)つ、七(なな)つ、八(やっ)つ、九(この)つ、十(とお)

4 課：大(だい)すき

6 課：一月(がつ)～十二月(がつ)、正月(しょうがつ)
一日(ついたち)、二日(ふつか)、三日(みっか)、四日(よっか)、五日(いつ
か)、六日(むいか)、七日(なのか)、八日(ようか)、九日(このか)、十日
(とおか)、十四日(じゅうよっか)、二十日(はつか)、二十四日(にじゅうよっ
か)

7 課：ふじ山(さん)

9 課：一人(ひとり)、二人(ふたり)、三人(さんにん)、四人(よにん)、五人(ご
にん)……

オーストラリア人(じん)、男子(だんし)、女子(じょし)

10 課：日本(にほん)、日本人(にほんじん)

* 本には、book、origin の意味があることを話します。

13 課：入口(いりぐち)、出口(でぐち)

5) 日本語を学習する子どもたちの読書に役立つ図書

『レベル別日本語多読ライブラリー』(にほんごよむよむ文庫)

<https://tadoku.org/japanese/book/2368/>

『こどものとも』(福音館書店)

<https://www.fukuinkan.co.jp/maga/>

毎日小学生新聞

<https://mainichi.jp/maisho/>

朝日小学生新聞

<https://www.asagaku.com/>

(回答者：(公社)国際日本語普及協会 所属日本語教師 金早苗)

注：AJALT の日本語教材「かんじだいすきシリーズ」

<https://www.ajalt.org/textbook/kanji/>

『かんじ だいすき(一)～(六) ～日本語をまなぶ世界のこどものために～』
日本語を母語としない外国にルーツを持つ児童生徒が楽しく漢字を勉強する
ための教材です。小学校の配当漢字 1026 字を取り扱っています。
